

学びの灯

ようこそ、広島都市学園大学 子ども教育学部へ

子ども教育学部には、様々な研究をされている先生方がいらっしゃいます。

このページでは、毎月、一人一人の先生方の思いや考え方などを記していただき、読んだ皆さんの心や頭に「学びの灯」をともします。

一つ一つの「灯」は、いくつか集まると、きっと大きな明るさとなり、皆さんの未来を明るく照らすものとなるでしょう。

また、ある「灯」は皆さんの拠り所となって、どんなときであっても、希望と温かさを保ち続けてくれるでしょう。

さらに、皆さんが「新しい灯」をともし、多くの人々の未来を明るく照らすことに役立つことでしょう。

さあ、今月は、どんな灯でしょうか？



「悩み」と出会う

子ども教育学部 学校経営論等担当教員 森下 真実

小学校教諭・幼稚園教諭・保育士を目指す学生が、最もいきいきとした表情をするとき、それは子どもとかかわっているときです。もちろんそうしたかかわりは「楽しい！」と思うことばかりではありません。ときには「難しいなあ…」と思い悩むこともあります。しかし、そのように思い悩んでいるときの表情こそ、とてもいきいきとした表情にみえます。なぜならば、それは学生が保育者・教育者になっていくために必要な「悩み」と出会っているからです。

現在、子ども教育学部 初等教育コースの3年生は、小学校での4週間の実習に行っています。実習に行くまでには、大学の講義で習った内容の復習をし、実際に自分が授業を行なうことを想定して流れを考え、授業で使うワークシート等をつくり、板書の練習をするなど、さまざまな準備をしました。実習に行く日が近づくにつれて、空き時間に、国語や算数などの教科を担当する先生のところへ自主的に相談に行く姿も見られました。実習に行くためには、こうした事前準備をしっかりと行なう必要があります。

そして実習では、実習校の児童や先生と日々かかわり、事前準備を踏まえて、そのかかわりについての考えを深めます。たとえば「先生はこのような意図をもっているのだな」「先生のあの声かけで児童の表情が変わったな」といった気付きや、「あの児童への働きかけは良かったのだろうか?」「この授業は手応えがあるけれどそれはなぜだろうか?」といった疑問を、これまで学んだことを踏まえて、小学校教諭を目指す自分の課題へ繋げていきます。こうしたプロセスの中で、学生は、自分が教育者になっていくために必要な「悩み」と出会うことができるのです。

11月上旬には、小学校での実習が終わります。学生は、どんな「悩み」に出会ったのでしょうか。実習を終えて戻ってきた学生から話を聞くことを、今から楽しみにしています。さらに、その出会った「悩み」について、学生がもう一歩考えを深めていけるよう、私自身も大学教員としての「悩み」と出会いながら、支援をしていきたいと思っています。